

---

# promise

明日歌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

promise

### 【Zコード】

Z7749L

### 【作者名】

明日歌

### 【あらすじ】

主人公の 神代 慎かみしろ まこと

が家の都合で転校することになった。

そこで 富野 紗江みやの さえに出会う。

紗江とは実は昔1回だけ会ったことがあり、約束をかわした。

今はそのことを忘れてしまった慎・・・

その約束を果たそうと待ち望んでいる紗江・・・  
2人の行く末は・・・どうなるのか・・・。

# 犬？猫？人間・・・！？

「神代 慎です。よろしくお願ひします。」

パチパチと拍手の音が聴こえる。

そう、俺はこの夏急に家の都合で転校することになった・・・

この桜浜高校に・・・

「初めてよろしくね！」

そう話しかけてきたのは隣の席の・・・

「・・・えっと・・・？」

「富野 紗江だよ！覚えてね！」

「ああ・・・よろしく。」

正直、女は苦手だ。

『さーちゃん！』

「あ、李子ちゃん！」

『おやあ？彼が噂の転入生君？？』

「そうなの！神代 慎君だよ！」

・・・また女か・・・

「この子は結城 李子なんだよ！」

「・・・よろしく。」

『へえ～そつかあ～よろしくねえ～！』

「あ、そうだ、お昼に楓君誘つて4人で食べない？？」

『おお～いいねえ。』

4人・・・つてことは・・・

「俺も！？」

「うんつ・・・あ、嫌だった・・・？」

「え・・・いや・・・」

泣きそうな顔をしている。富野は美人の類に入る。  
正直可愛かった・・・。

「うん、分かつた。OK

「ほんとおー？ありがとうー！」

「・・・。」

犬みてえな女だ。

なんかめんどい事になつたな・・・。  
これから・・・どうしよう・・・。

## 犬？猫？人間・・・！？（後書き）

いやー、初投稿だつたんで  
短いし話もよく分からないと 思いますが。  
これからどんどん投稿していくんで。  
楽しみにしててくださいw  
でわ！是非是非よろしくです！

## 新しい友達

「屋上」

李子『いつただつきまあ～す。』

紗江「わあ～つ慎君のお弁当がうまい～！」  
「美味しかった～。」

慎「そう～。」

紗江「うん～たけさんワインナーかわいい～！～！」

慎「食べる？」

紗江「えつ・・・でも・・・いいの・・・？」

慎「別に。」

紗江「ありがとーーじゃあ、アタシの玉子焼きあげるーー。」

李子『いいなあーーアタシもー玉子焼きとワインナー欲しいーー』

紗江「うん～、いよいよ～あ～おこひい～」

やつぱり・・・モテるんだな、食べてるからか男の視線に気づいて  
ない・・・。

李子『あれえ～？楓君はあー～。』

慎「楓？」

紗江「あつそつか慎君知らなかつたよね」

「どこかで聞いたことのある名前だ……。いつだらけ。なんか懐かしく感じる。

紗江「楓君はね～アタシの幼馴染なのー」

慎「……そつか……。」

紗江「うん。仲良くなしてあげてねー。」

慎「ああ、分かった。」

「にして、遅いな。何してるんだい？」

慎「うめん、ちよつとトイケー」

紗江「いつからしゃーーー」

李子『…………やめやん……。』

紗江「ん？」

李子『慎君にホントの』と言わなくていいの？』

紗江「…………今は…………それでいいの……。」

李子『そつか……でも、いざれバレちゃう』だから早めにね？』

紗江「うんっ、アリガトねーあ、楓君ー」うかうか「

楓「お~ お待たせ。」

紗江「楓君今日はパンなんだねえ~」

楓「まあな。作る暇なかつたから。。」

紗江「そつかあ~、そつこいつはアタシ作るの!!~」

楓「紗江にはいっつもなんかしてもらつてるしこよ。」

紗江「そう?でもアタシ弁当作るの好きだし、いつでも貰つてね!」

楓「ああ、サンキュー」

紗江「いえいえ~」

李子『ううううう、こつまでイチャつこぐるの。』

紗江「ほええ~!?」

楓「い、こちやついてねえよッ!」

李子『あははーおもしろい!』

紗江「もひつー馬鹿あー!」

楓「。。。」

李子「はつまつはー···にしても慎君遅いね~」

紗江「あ~確かに~どしたんだろ···」

慎「···。」

あの2人···付き合っていたのか···。  
なんでだろう、今日ははじめて会つたはずなのに···。  
なんで、こんなに···。···。

慎「はあ···。」

紗江「慎君ツ見~つけた!」

慎「え···。」

紗江「遅いから迎えに行こうと思つたらいいといったんだねーーー!」

慎「ん···うん。」

紗江「校舎案内するから早く食べやせー!」

慎「···うん···。」

楓「お?神代?」

慎「あ、はい？」

楓「おお～久し・・・初めまして！柴田 楓だ。よろしくなー。」

慎「神代 慎です。よろしく。」

紗江「あれ？李子ちゃんは？？」

楓「ああ、用事があるから先戻つたぞ～」

紗江「そつかあ～、そうだ！楓君も一緒に校舎案内しよ～？」

楓「OK。」

紗江「それじゃッ行こつか！慎君早く早く～～！」

慎「あ・・・うん・・・」

・・・別に校舎案内とかいらないんだけどな・・・。  
まあ、いいか・・・。

何故か、富野の頼みは断つちゃいけない気がしたんだ・・・。

続く。

## 新しい友達（後書き）

2回目の投稿ですが  
登場人物が増えたんで一応誰が喋ったか分かるように  
名前を書いておきました！  
それでは次回もお楽しみに♪

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7749/>

---

promise

2010年12月31日20時57分発行